

内陸地域の副市町村長等と県との意見交換の概要について(速報版)

■開催状況

- 1 開催日時 平成 23 年 5 月 31 日 (火) 10 : 30 ~ 12 : 00
- 2 開催場所 岩手県公会堂 21 号室
- 3 参集者 内陸市町村の副市町村長等 21 名
- 4 議題
 - ・ 県復興ビジョンについて
 - ・ 震災における取組課題について

■主な意見等の概要

《交通ネットワークの整備》

- 内陸から沿岸市町村につながる道路は、復興支援道路として重要。県南部を經由して多くの支援者が沿岸地域に入るため、県中央からのアクセスだけでなく、県南地域からの道路の整備も必要。

《風評被害対策》

- 自粛ムードにより沈滞した観光需要を喚起するため、平泉文化遺産の世界遺産登録を復興のシンボルとし、誘客を図るべき。
- 盛岡広域 8 市町村では、シンボルマークや標語を決定し、横断幕やのぼり旗、シール等を作成し、復興支援を広く呼び掛けている。

《震災時における情報共有》

- 内陸市町村が、沿岸市町村から個別に情報収集することは困難なので、県がまとめて情報収集し、内陸市町村に提供することが必要。
- 統合型 GIS は、有事に有効で便利なものであり、全国的に導入すべきと考えるが、価格が高いため、財政支援措置等を国に要望してほしい。

《被災者の受け入れ対応》

- 内陸市町村では、沿岸市町村からの被災者の受け入れ支援を行っているが、受け入れ市町村によって支援内容が異なるため、ある程度、統一化を図るべき。

《主食用米作付面積の調整》

- 沿岸市町村の被災水田では、来年度も米を作付けできない見込みであるため、来年度以降も、内陸市町村の主食用米作付面積との調整を実施していきたいと考えている。

《放射能対応》

- 放射能による農作物、水道水、学校校庭などへの影響について、住民への対応等が必要となってきた。放射能に関する情報を県民に提供するとともに、県としての対応方向を示すべき。

《その他》

- 総花的でなく、重点を絞り込んだビジョンとすべき。